

令和2年度第3回（第10期第5回）さいたま市社会教育委員会議 会議録

○開催日時：令和3年1月18日（月）14時00分～15時30分

○開催場所：大宮区役所2階 大会議室

○出席者名：【委員】若原 幸範議長、石田 玲子委員、市橋 大委員、
井上 久雄委員、岡野 育広委員、加藤 恒委員、
加藤 美幸委員、林 弘樹委員、引間 成子委員、村山 和弘委員

【事務局】（生涯学習部）竹居 秀子

（生涯学習振興課）山本 高弘、辰市 健太朗、森田 敏男、
田方 靖高、久松 丈記、曾根 啓佑

（生涯学習総合センター）中村 和哉

（中央図書館）内山 恵介

【生涯学習推進部会】（行財政改革推進部）宮本 恭嗣 PPP コーディネーター、

（人権教育推進室）野口 裕史主任、

（文化財保護課）杉本 智子主査、

（青少年宇宙科学館）安藤 紘子指導主事、

（博物館）磨田 顕寛主査、

（うらわ美術館）木曾 毅指導主事、

（岩槻本丸公民館）鈴木 浩主査、

（資料サービス課）山宮 睦主査、

（与野図書館）宇田川 杏子主任

○欠席者名：坂口 緑副議長、桑原 静委員、亘理 史子委員、河井 尚委員、
丹 能成委員

○公開・非公開の別：公開

○傍聴人の数：なし

1 開会

2 報告

前回会議の概要について説明した。意見等は特になし。

3 議事

(1) 生涯学習ビジョン素案について

事務局から資料1に基づき以下のとおり説明し、意見を伺った。

- ・前回の社会教育委員会議でいただいた御意見を踏まえ、生涯学習推進部会で熟議を行い、素案を作成した。
- ・ビジョンの方向性としては「生涯の学びを通じて自分とまちが輝く未来」とし、市としての未来づくりとともに、市民をはじめとした学習者の未来を生涯学習によって共に作っていかう、という気持ちを示したものである。

①全体の構成について

<村山委員>

- ・私の所属する団体はスポーツと関係が深いですが、スポーツに関するビジョンや計画には、生涯学習に関する踏み込んだ記述等はないと思う。今回の生涯学習ビジョンについて、市長部局の計画との関連はどうなっているのか。

<事務局>

- ・生涯学習ビジョンの策定に向けては、市長部局からの意見もいただきながら進めている。今後も十分に連携を図りながら、オールさいたま市で生涯学習を推進していきたいと考えている。

<林委員>

- ・行政として、生涯学習にどのように取り組むのかを明確かつ具体的に示すことが、ビジョンにとって大切だと思う。特に、学んだことによってさいたま市をどうしていきたいのか、どうやって学びを活かしていくかが重要だ。

<事務局>

- ・さいたま市が策定するビジョンであるため、「学びを通じた市民と市の未来づくり」というメッセージとなるよう、教育委員会として検討した結果を素案としてお示しした。
- ・具体的な事業については、今後毎年度発行するガイドブックに掲載する。

<市橋委員>

- ・ビジョンを作る前に、市民目線でやることがあるのではないか。時間をかけてビジョンを作っても、市民は読まない。組織が縦割りなので、講座情報がバラバラに掲載され、必要なところにたどり着けない。人材情報もバラバラだ。まずは、そういうところを改善すべきだ。

<事務局>

- ・ビジョンは、市民に新たな取組を示すために必要であると認識している。市からの情報提供が分かりづらいという御意見を踏まえ、生涯学習情報システムを令和2年2月に改修したところである。全ての情報を一括して提供する仕組みはできているため、コンテンツの充実を図っていきたい。

②「生涯学習ビジョン策定に向けて（資料1 1～2頁）」について

<加藤美幸委員>

- ・本題に入る前の章としては長過ぎる。構成を変えるとか、短くするとか、もう少し工夫して欲しい。

<加藤恒委員>

- ・今までと大きく変わるところは最初に示すべきなので、私はこの構成で良いと思う。文章が長い点は同意である。

<事務局>

- ・見せ方は今後工夫していきたい。大きな時代の変化が起きていることを表すためにこれだけの分量が必要となった。

<加藤美幸委員>

- ・冒頭に「協働」が大切であると記載されているが、それだけでは「学び続ける」ことにつながらないため、「学びや学んだ経験を活かし」といった言葉を加えたほうがいい。
- ・「安全を脅かす」は、中教審の答申に倣って「命を脅かす」にしてはどうか。
- ・「SDGs」は知らない人が多いので、最初にSDGsとは何かという説明が必要だ。

<事務局>

- ・検討させていただく。

<石田委員>

- ・これまでより良くなったと思うが、自分なら前段は読まない。市民にとって重要な部分は「ビジョンを実現するために」の部分である。

<事務局>

- ・前段部分については、なぜ今ビジョンが必要なのかという大きな流れが必要だと考えて記載したところである。

③「生涯学習ビジョンとは（資料1 3～4頁）」について

<林委員>

- ・どこがビジョンなのかを明確に示すべきだ。

<事務局>

- ・資料1全体がビジョンであり、ビジョンの目指す方向性として3頁の「生涯の学びを通じて自分とまちが輝く未来」を掲げている。

<加藤恒委員>

- ・「学び人」と「提供者」が、対立しているという誤解を招く。提供者でなく、「支援者」、「サポーター」など、他に適当な言葉があるのではないか。

<事務局>

- ・最近では「伴走者」、「寄り添う」なども使われるので、検討したい。

<宮本 PPP コーディネーター>

- ・市民が学び人、行政は提供者という二項対立は避けるべきだ。市民が学習の提供者にもなれる、立場を固定しないことが公民連携のひとつの姿である。私は生涯学習の必要性について、欲しい暮らしは自分で作る、そのために学びが必要だということだと感じた。

最近、健康や生きがい、自己実現のために、薬を処方するのではなく、地域との接点を作るための情報を処方する「社会的処方」が必要だ、と国でも言い始めて

いる。公民館や図書館は、社会的処方リンクワーカーになり得る。そういうことをビジョンに示せるとよい。

<加藤美幸委員>

- ・ 3頁にあるビジョンの方向性と、表紙の副題は揃えたほうがいい。
- ・ 「個人の成長」、「輪の成長」、「まちの成長」とあるが、輪は拡大、まちは創造などとした方が分かりやすい。

<事務局>

- ・ 御指摘を踏まえ、改めて検討する。

④「ビジョンを実現するために（資料1 5～7頁）」について

<加藤美幸委員>

- ・ 5頁下段の「ICT」は、項目が一つしかないが、デジタルディバイドの解消、GIGAスクールなどを付け加えるのもいいかと思う。

(2) 生涯学習推進計画関連事業調査について

事務局から資料2に基づき説明した。意見等は特になし。

以上